

みやぎ・伊達な病理医育成プログラム

(基幹施設：東北大学病院)

東北大学病院病理専門研修プログラムの内容と特色

○プログラムの理念

東北大学病院病理部を基幹施設とする専門研修プログラムでは、

- ✓ 安定して確実な診断を行える技能を習得することに重きを置いている。
- ✓ 一人の専攻医を常に複数の指導医が指導・評価を行う。
- ✓ 適切な症例数を偏りのない内容で勉強する。

○プログラムにおける目標

本専門研修プログラムでは、診断技能のみならず、臨床検査技師や臨床医との連携や難解症例の扱いを習得することにより、地域基幹病院にて即戦力として活躍することが期待できる一方で、教育者や研究者など幅広い進路に対応できる経験と技能を積むことが望まれる。

○プログラムの実施内容

1 経験できる症例数と疾患内容

- ✓ 組織診断や迅速診断に関しては受験資格要件となる症例数の2倍以上の症例を経験可能である。
- ✓ 解剖症例は、経験症例数の少ない専攻医に優先的に割り当てており、基幹施設以外の連携病院で十分な解剖症例数を用意することが可能である。
- ✓ 癌に特化した宮城県立ガンセンターや小児疾患に特化したこども病院、各地域の中核病院など多くの病院と連携することで豊富な症例を経験できる。

連携施設：

石巻赤十字病院、大崎市民病院、栗原市立栗原中央病院、気仙沼市立病院、坂総合病院、仙台医療センター、仙台オープン病院、仙台厚生病院、JCHO仙台病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院、仙台徳州会病院、東北公済病院、東北医科薬科大病院、東北労災病院、みやぎ県南中核病院、宮城県立がんセンター、宮城県立こども病院、十和田市立中央病院、八戸市立市民病院、平鹿総合病院、岩手県立磐井病院、岩手県立大船渡病院、岩手県立中央病院、東北中央病院、日本海総合病院、がん研有明病院

2 カンファレンスなどの学習機会

- ✓ 各種カンファレンスや勉強会に参加することにより希少症例や難解症例に触れる機会も多くある。
- ✓ 各サブスペシャリティを有する病理専門医からのレクチャーにより、より専門的な知識の整理・習得が可能である。

3 地域医療の経験

- ✓ 病理医不在の病院への出張診断（補助）、出張解剖（補助）、迅速診断、標本運搬による診断業務等の経験を積む機会を用意している。
- ✓ 地域医療の一貫として遠隔病理診断テレパソロジーによる地域病院のサポート体制を実施しており、これらも実際に経験してもらう。

4 学会などの学術活動

- ✓ 専攻医は病理学会総会における学会発表は必須としている。
- ✓ 教育的な症例や問題症例などに関して、病理学会東北支部学術集会での発表を研修期間中に最低1回は行う。可能な限り診断病理などへの雑誌投稿を目指す。
- ✓ 解剖症例に関しては、報告書を作成するだけでなく、大学病院や連携施設内でのCPCでの発表を行う。さらに、これらの中から学術的に意義深い症例は外部雑誌への投稿を推奨している。

○研修プログラム（スケジュール）

- ✓ 専攻医は病理専門研修（3年間）に従事した後、4年目で病理専門医試験の受験が可能である。
- ◎ 希望がある場合は大学院への進学も可能であり、病理研修と解剖をしながら、研究も行うスタイルとなっている。大学院を選択した場合においても、各施設（病院）での研修と大学での研究を並行して進めるために、無理なくプログラムを消化できるような内容の構成となっている。

○研修カリキュラム

東北大学病院病理部

i 組織診断

- ✓ 研修中は月毎に組まれる病理部の日替わり当番に組み込まれる。当番には、生検・迅速、切出、細胞診、解剖の4種類があり、それぞれの研修内容が規定されている。
- ✓ 指導医は固定せず、迅速・生検・切出/細胞診/解剖に一人ずつ計三人の指導医が割り当てられている。
- ✓ 各当番の回数は、専攻医の習熟度や状況に合わせて調節される。

ii 解剖症例

- ✓ 約1ヶ月程度で見学から助手を経験させ、その後専攻医の習熟度を評価しながら執刀医を担当させる。
- ✓ 頸部・骨盤・脳・脊髄の円滑な検索が可能な技能を習得できるようにする。
- ✓ 執刀症例は全例剖検カンファレンスの対象となり、院内臨床病理カンファレンスにて解剖症例の病理解説を担当し、発表を行う。

iii 学術活動

- ✓ 病理学会や学術集会の開催日は専攻医を当番から外し、積極的な参加を推奨している。
- ✓ 週に一回症例検討回を開き、症例や最新トピックスを診断医が共有する機会を設けている。

iv 自己学習環境

- ✓ 専攻医マニュアル（研修すべき知識・技術・疾患名リスト）に記載されている疾患、病態を対象として、疾患コレクションを随時収集しており、専攻医の経験できなかった疾患を補える体制を構築している。

v 1日の過ごし方

	生検当番	切出当番日	解剖当番日	当番外(例)
午前	生検診断	(随時) 手術材料診断	病理解剖	手術材料診断
	(随時) 迅速診断、 生材料受付			
午後	指導医による診 断内容チェック	生検検体・手術 検体の切り出し	追加検査提出、 症例まとめ記載	解剖症例報告書作成
	修正			カンファレンス準備
				カンファレンス参加

○プログラム役職の紹介

i プログラム統括責任者

藤島 史喜

所属：東北大学病院病理部准教授

資格：病理専門医、病理専門医研修指導医

細胞診専門医

略歴：

1999年 東北大学医学部医学科卒業

1999年 国立水戸病院（現：水戸医療センター）臨床研修

2003年 東北大学大学院医学系研究科博士課程大学院生

2007年 東北大学病院病理部 医員

2007年 東北大学病院病理部 助教

2016年 東北大学大学院医学研究科医科学専攻病理診断学分野准教授

2020年 東北大学病院病理部 准教授

鈴木 貴

所属：東北大学大学院医学系研究科病理診断学分野教授

（東北大学大学院医学系研究科病理検査学分野教授、東北大学病院病理部部長）

資格：病理専門医、病理専門医研修指導医

略歴：

1990年 東北大学医学部卒業

1994年 東北大学大学院医学研究科博士課程修了

1994年 東北大学病院病理部助手

2006年 東北大学大学院医学系研究科病理検査学分野教授

2022年 東北大学大学院医学系研究科病理診断学分野教授

2022年 東北大学病院病理部部長

ii. 副プログラム統括責任者

佐藤 聡子

所属：東北大学病院病理部助教

資格：病理専門医、病理専門医研修指導医

細胞診専門医

略歴：

2006年 福島県立医科大学医学部卒業

2006年 東北厚生年金病院（現東北医科薬科大学病院）研修医

2010年 東北大学大学院医学系研究科博士課程大学院生

2013年 東北大学病院病理部 医員

2017年 東北大学病院病理部 助教